参考資料３

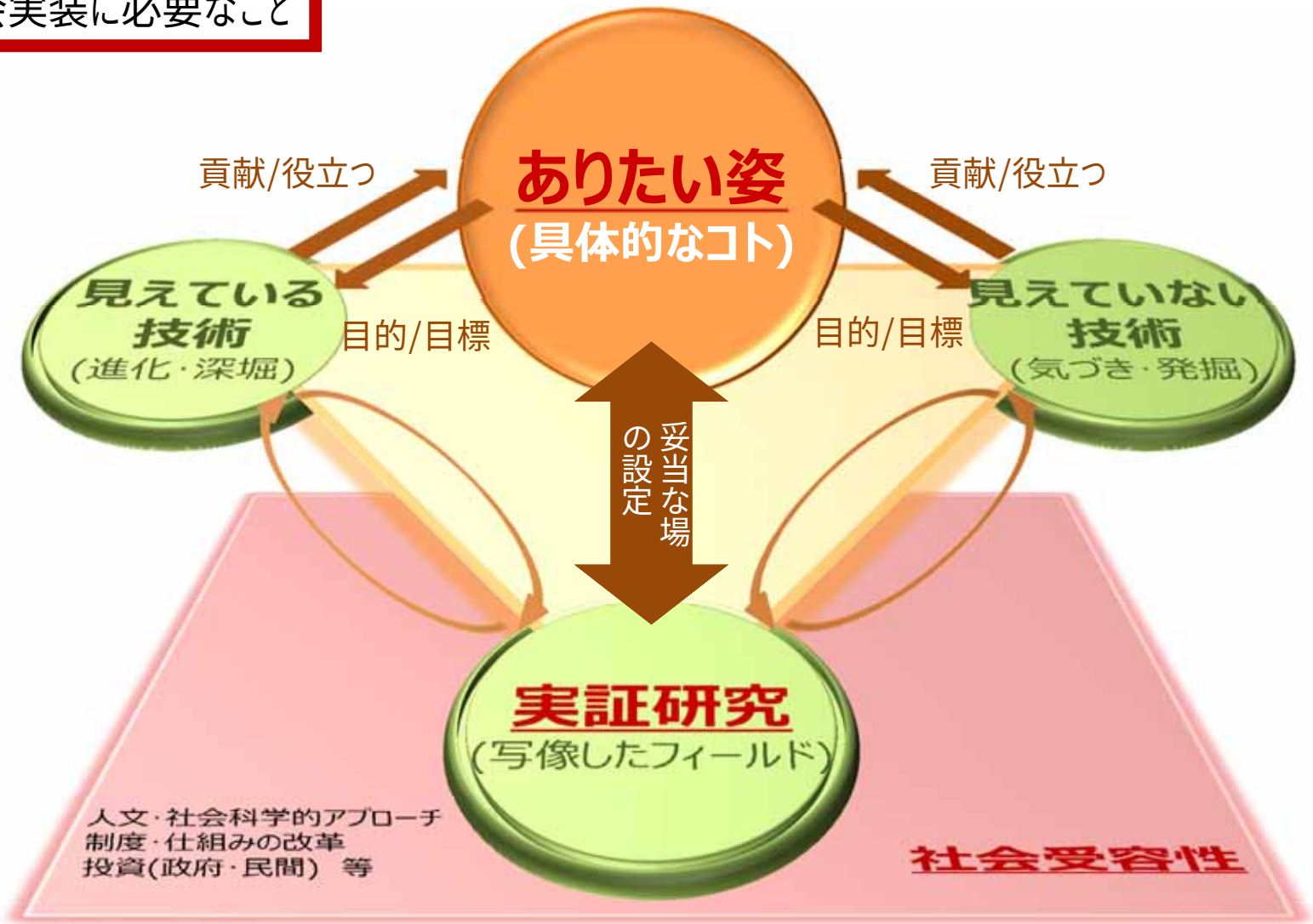
今後さらに取り組むべき課題
～ICT-WGからのご提案～

平成26年3月10日

ICT-WG構成員　佐々木繁
(株式会社富士通研究所)

■ 課題検討において重要な視点

社会実装に必要なこと



- 将来社会のありたい姿を、より具体的な「コト」として明記する必要がある。
- これに基づき、実証研究をその写像としてデザインし、基盤技術(ツール)としてのICTの研究開発とともに、施策を展開していくことが社会実装にとって重要であると考える。

■ 課題検討において重要な視点(補足)

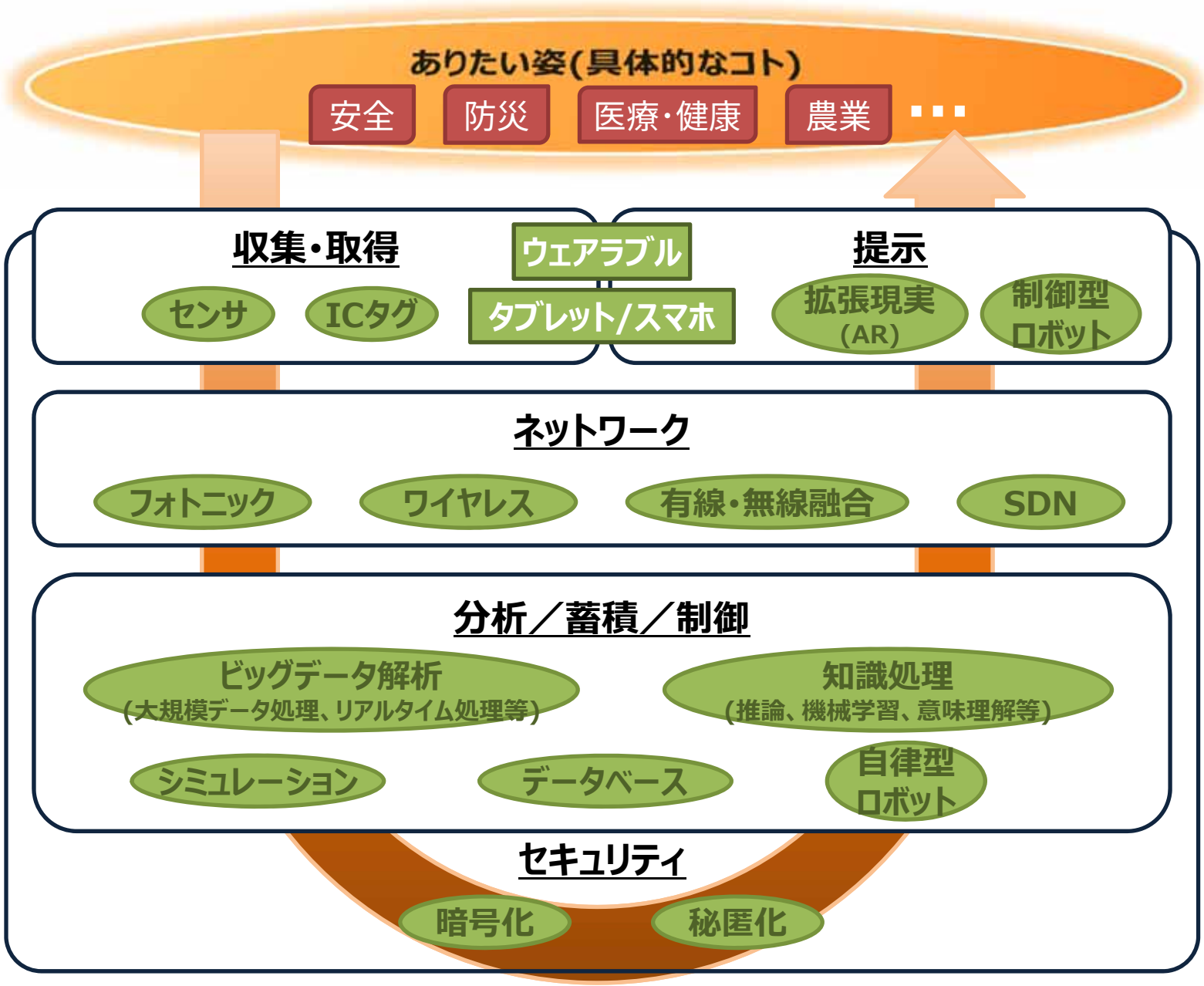
● 実証研究の推進

- ICTは一つの要素技術だけではなく、技術を組み合わせてシステム全体として利活用することによって将来社会のありたい姿(社会的な課題の解決)の実現を図るものである。
- したがって、具体的に実現したい「コト」を明確にしながら、個々の要素技術間での連携を図り、研究開発の早い段階から実フィールドにおいて適用検証サイクルを回していくことが社会実装への近道である。

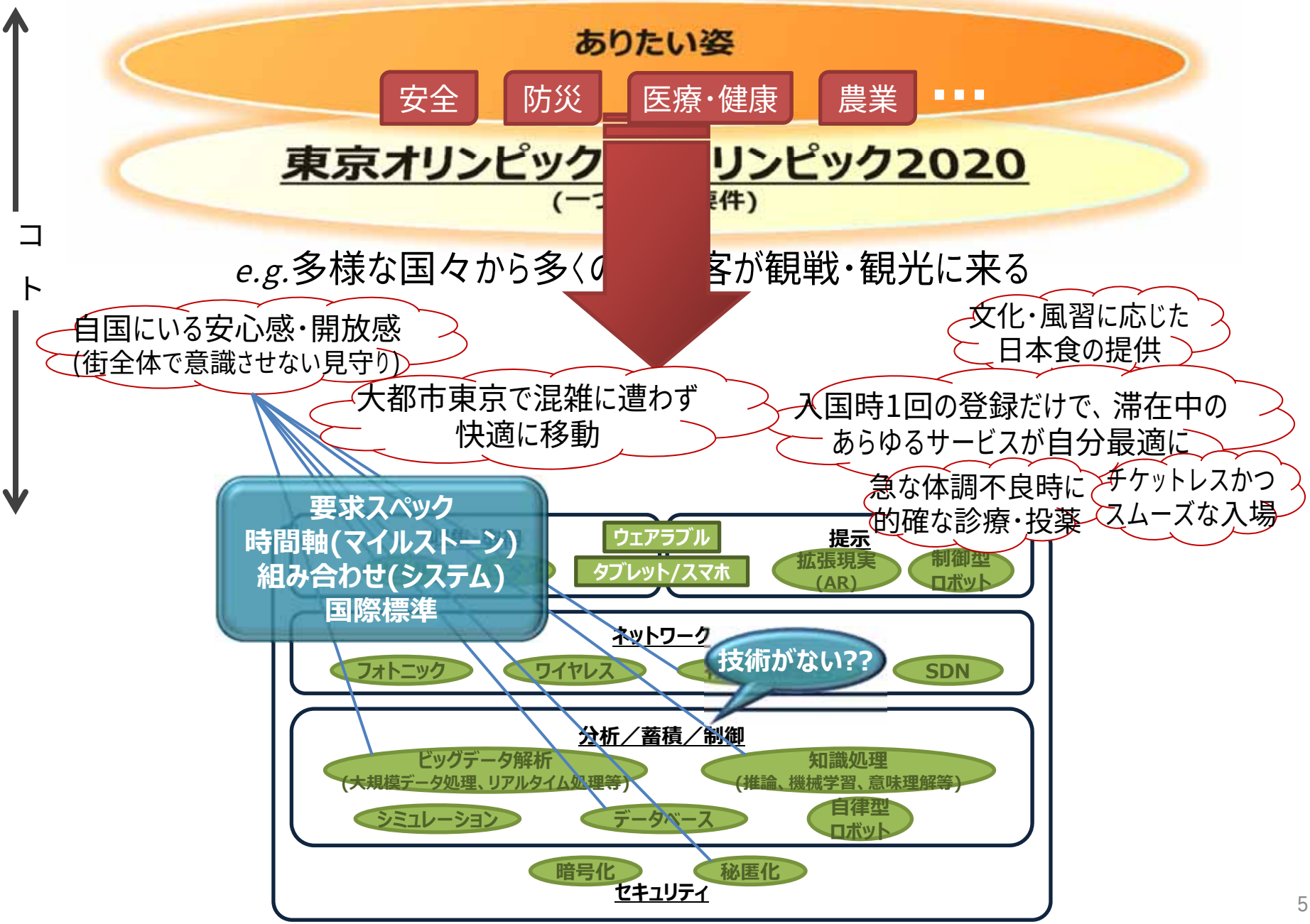
● 基盤技術(ツール)としてのICTの研究開発の加速・強化

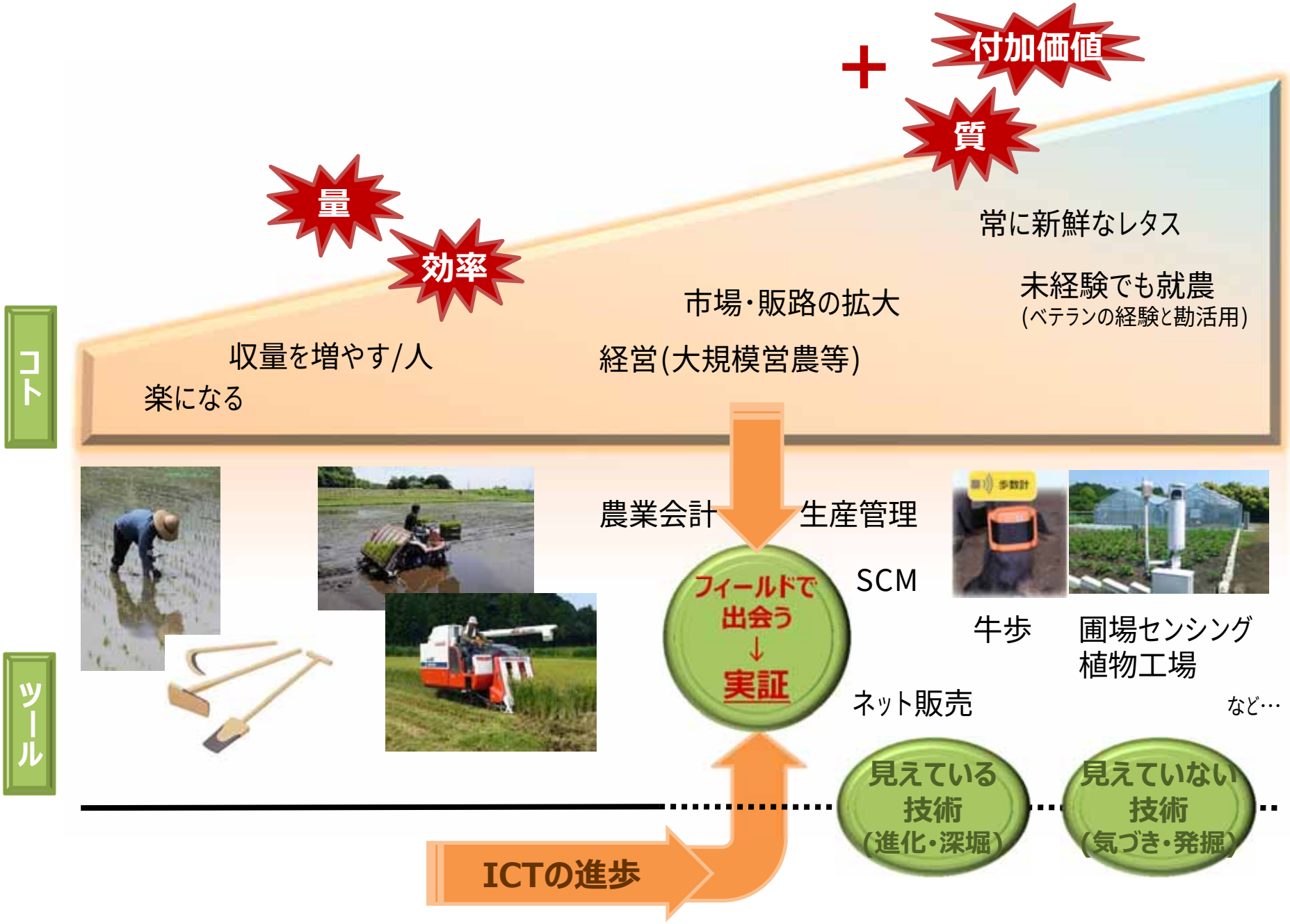
- ICTは分野横断的な基盤技術であり、あらゆる社会的な課題の解決のためのインフラとして、あらためて重要な研究開発領域として次期総合戦略の中で位置づけ直すことが必要である。
- その際、ありたい姿にどのような貢献を果たすかを明確にすることにより、技術進歩の方向性から行われる技術開発(e.g.大容量ネットワークの開発)だけでなく、ありたい姿の実現に必要となる新たな技術開発(e.g.知識処理技術)についても積極的に施策立案を行い、研究開発の加速化を図るべきと考える。

■ICTの技術/構造整理 ≪データ/情報のフロー(機能)で捉えた場合≫



■具体的なコトの明確化と、そこから見えてくる技術



■コトと基盤技術(ツール)の関係

ご参考